

# 「水田交付金見直し」 5年間一度も稲作しない 水田は交付対象から除外

農林水産省が2022年度予算案で、「水田活用の直接支払交付金」の条件を厳格化すると打ち出し、波紋を広げています。

2026年産までの5年間で、稲作のため一度も水張りを行わない農地は、交付対象から除外します。

多年生牧草が対象の助成は、種まきをせず収穫のみを行う年については、現行の10ア当たり3万5千円から同1万円に減額します。

飼料用米の複数年契約への加算を廃止します。

## 5年間で選択迫る

転作が長期・固定化する中で、米を作れる

状態に容易に戻れない「水田」が、各地に広がっています。

農水省は、水田を畑地化して交付金を断念するか、水稲と畑作物を輪作するか、今後5年間で選択せよと地域に迫ります。

## 交付金が頼り

「水田活用の直接支払交付金」は、水田で転作した場合

①戦略作物助成で、10ア当たり麦・大豆・飼料作物（牧草や飼料用トウモロコシなど）で3万5千円、加工用米で同2万円、飼料用米と米粉用米で、収量に同じ同5万5千円、10万5千円、  
②産地交付金で、飼

料用米と米粉用米の複数年契約に同1万2千円、ソバ・ナタネで2万円など、農家に支払われる助成金です。

畑作への十分な支援がないため、この交付金に頼らざるをえない実態があり、無くなれば生産の継続が難しくなります。

## 交付金欲しければ米作れか！

今回の方針は、財務省が数年前から転作拡大に伴う交付金の予算増を問題にし、「現況として米生産ができない農地は除外すべきだ」などと指摘していたことを受けたものです。

重大なのは、岸田文雄内閣が、コロナ禍の米価の大暴落を放置し、2年連続の史上最大の減反拡大を打ち出している中で、「交付金が欲しければ米を作れ」と言うのかです。

農業つぶしがあからさまな見直しは、即刻中止すべきです。

## 水田活用の直接支払交付金の主な見直し内容

- ★交付対象  
今後5年間で一度も水張り（米の生産）がない水田は除外
- ★多年生牧草への戦略作物助成  
種まきから収穫まで行う年は現行通り10ア当たり3万5千円。種まきをせず収穫のみを行う年は同1万円に減額
- ★産地交付金  
飼料用米などの複数年契約は、2022年産から加算措置の対象外。20、21年産の契約分は10ア当たり6千円加算に半減

## 藤沢周平を読む24

鈴木重雄（八色木）

おすえは腹痛の持病で、ときどき大鷲坊の祈禱でめでたく痛みがおさまったあと、はずみのようにして身体の関係が出来た。

神聖な祈禱者といえども、中味は男である。おすえの誘いをはねつけるほど、堅物でなかったの、その後も、腹痛みの治療を兼ねて時どきおすえの家に通った。

だがそういう事情は、不思議にどこからか洩れるらしく、村中で評判になりかけた気配があったので、大鷲坊はここしばらくご無沙汰していた。幸い気候もよくなったせい、おすえの腹痛のお呼びもなかったの、半ばおすえのことを忘れていた。

そもそも惚れたはれたというかわりもなく、いわばおすえの孤闘をなくさめるといった情事だった。おすえも淡泊なたちでしつこいことは言わなかった。30後家で、村でも指折りの不器用である自分をよく心得ている女である。

それでも大鷲坊をみると気になるのは、ふだん男のような口をきいているものの、やはりおすえは女だということかも知れない。大鷲坊は閉口して言いわけをした。

「うーむ。腹も痛まなくなつたし、何も用事なくて出かけるのは、恰好悪い」

「腹なの、どうでもえなでねがや」

おすえがすりよつてきたとき、途方もない大声が聞こえた。

「やあ山伏ど。ここサいだが」

近づいて来たのは、肝煎の家で下男をしている八兵衛という年寄りだった。八兵衛はおすえをのぞくと、お前はおすえでねえが？と言った。

「ンだばまだ後で」  
おすえは早々に離れて行った。八兵衛には前にも2人きりであるところを見られている。妙に穿鑿されてはまずいと思つたようだった。  
「肝煎どが、何か用事だっけが？」

「ンだ。晩げの飯喰てがらでいいさげ、ちよつとき来てくれど」  
「よし、よし」

大鷲坊は早々に八兵衛と別れた。  
「おすえに、あれでも作つてやっが。」

子供のころ大鷲坊は、夜中に父親が奇妙なものを、木で細工していたのを見たことがある。大鷲坊に見られて、父親はあわててそれを膝の下に隠したが、その物の形は頭の中に残った。

その後、山伏として修業を積み、大鷲坊は先輩山伏にさまざまな世間的な知識を教えられたが、村の後家に頼まれて張形をつくっていたらしいことも理解したのであった。

# 朝日かたくり温泉「ぼんぼ」 行革の誤りを認め、 再建を検討すべき

朝日かたくり温泉「ぼんぼ」について、ぼんぼ管理運営組合から今年1月末に、「令和4年度で管理運営業務を終了する」旨の届出が、市に提出されました。終了理由は、コロナ禍で入館者が減少し、燃料費の高騰など維持経費が増加し、累積赤字の解消が困難と判断したとのこと。

## 行革で普通財産に

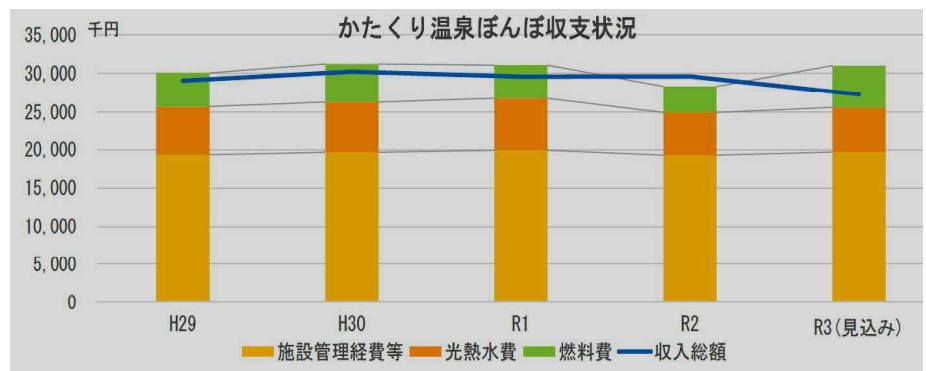
朝日かたくり温泉「ぼんぼ」は、1993（平成5）年度に、朝日村直営の温泉施設「健康と福祉の里」として開館し、社会福祉法人へ業務委託してきました。市町村合併後、平成27年度に指定管理者による管理運営し、28年度に行財政改革により閉館の方針が出され、行政目的のための「行政財産」から、目的を持たない「普通財産」（貸付、売却、譲与ができません）になりました。

温泉継続を希望する署名が市に提出され、平成29年度から市民有志の「ぼんぼ管理運営組合」が、市から光熱水費相当分の支援を受け、営業してきました。介護予防事業「通所サービスB」や、百歳体操、世代間交流事業「雪ランタンまつり」、輪投げなど多数実施してきました。

費用対効果だけで判断できない

令和4年度は、介護予防や健康増進事業などを維持し、バス運行ルート等の検討を行い、施設活用については貸付や譲渡先等を検討するとしています。

人口減少で衰退の激しい旧町村の地域では、住民の福祉増進を目的にした公共施設を、「費用対効果」だけで判断はできません。廃止で、地域の衰退



に取り返しのつかない影響を与えます。行革の誤りを認め、再建を検討すべきです。

## ひと

### 日下部勇一 (庄内町榎島)

#### 波瀾(乱)万丈の人生

青山 崇

■若勢入門『善治日記』  
前々から気になっていたので、本はないかと県立図書館、在住の山形市図書館などを調べたが、ない。鶴岡市立図書館にあった。やはり民俗学の盛んなどこ



ろだと感心した。『若勢』出羽国の農業を支えた若者たち』須藤功・2015・無明舎出版』である。

「農業がすべて手取りだった時代、厳しい農家や農作業を支えたのは、若勢たちの存在だった。若勢はいつどのようにして生まれ、どんな歴史をたどったのか書かれている。秋田県横手市の民俗写真家として活躍する著者で、著作も多い。

目次で庄内に関わるところは、『善治日記』に見る若勢／昭和の調査若勢と雇主働く若勢調査のまとめ／庄内地方の若勢』である。

『善治日記』は、飽海郡豊原村(現酒田市豊原)に、1878年(明治18)、伊藤巳之助の次男として生まれた善治が、1893(明治26年)元日から1931(昭和6年)大晦日までの42年間に渡って書かれた日記である。

さらに、1931(昭和6年)元日から1934(昭和9)までの『若



## 政務活動費に？

あの人・県の議長した人で、あや、ビックリのしたごと。して、全国の会長もしたんだと。そげだごどする人だとは知らねがった。これは新聞などで報道された山形県の話だ。

▲県会議員に支払われる政務活動費から、事務員に月8万円をくれているとしながら、7万円を自分のポケットに入れていたという。長い年月で莫大な金額に。どこでもとりあげないからと、共産党の議員団が告発したようだ。

▲こちらは、「副議長も務めたベテラン議員がそのような発言をされたことに耳を疑った」という言い方。俺には普通の話に聞こえるんだが、鶴岡市議会では、個人を侮辱した事になると問題に。

▲発言者は謝罪をさせ



(善治)

『勢日記帳』がある。婿養子から戸主になった善治が、雇った若勢の日々の農作業などを書いたものである。なお『善治日記』は、日々の天気と農作業、まわりの人の動きなどを、和紙に毛筆で簡素に描かれている。

当時、義務教育は4年までである。庄内に根気があり几帳面な農民がいた。

られ、発言は議事録からは削除したんだが収まらず、懲罰特別委員会が開かれ処分が下されたんだと。同じ会派にいた議員を、同じ会派に残れなくなったさげ、取り上げたんでねがや？と話す人もいた。

▲それは、差が百数十票という市長選挙の結果が腹に収まらず、市長が貰った百万円で百条委員会まで進んだなど、根っこは同じなんですね？という声も。

▲元気にここまで来たのに、一服せざるを得なくなったんだ。というの、市議会議員が貰っている政務活動費に？(ハテナ)がある。そうだと新聞報道。新クラブの5人のガソリン代の領収書が不正で、単価が年中、毎月同額もあるときは、やっぱり？ダゼ、

▲何故自分の手書きなんだや。公金をウソこいで貰うと詐欺になんかねがんな。(石川)